

特集 職業奉仕月間



職業奉仕を考える

職業奉仕に力を注ぐ

国際ロータリー職業奉仕推進委員会の方針

2011 - 12年度R I職業奉仕推進委員会 委員長 黒田 正宏 (八戸南RC)

職業奉仕を実践するための パネルジーR I会長のアイデア

今年度のカルヤン・パネルジー国際ロータリー (R I) 会長は、職業奉仕の大切さを、R I会長エレクトの時から述べています。まず2011年6月1日に、次期R I会長として、全世界のガバナーエレクトにメールでメッセージを送っています。

その趣旨は1. 奉仕部門の中でも、特に職業奉仕に力を注いでいただきたい。2. ロータリー独自の分野である職業奉仕は、ロータリー全体の土台を成している。3. ガバナー公式訪問や『ガバナー月信』では、職業奉仕の重要性を強調してほしい。4. 職業上の関係は、人と人との協力、そして個人の高潔さ、思いやり、誠実さを土台としてつくられている。お金や物を所有することにとらわれがちな今の時代に、職業奉仕の重要性を強調することは私たちロータリアンの役目であることをクラブに伝えてほしい、ということなどです。

7月にR I会長に就任してからは、8月16日に同じような内容のメッセージを、全世界の地区職業奉仕委員長に送っています。

その中ではクラブに対して次のようなメッセージを伝えるようお願いしております。1. 会員の勧誘と紹介において職業と職業分類を強調する。2. クラブの活力維持のため職業を強調する具体的な方法を決める。3. クラブと地区レベルにおいて、高潔性を基本にした職業上のネットワークをつくる。4. 新世代を惹きつけ指導する方法として、高潔性を伴った職業上のネットワークをつくる。5. 「四つのテスト」と「ロータリアンの職業宣言」との関連を強調し、ロータリーにおけるこの二つの大切さを強調する。6. 倫理と高潔性を推進しながら、新世代とともに奉仕する、ということなどです。

さらにパネルジーR I会長は、職業奉仕の実践に対する自分のアイデアも紹介しています。1. 職業奉仕

月間である10月に特別な活動を計画する。2. 地域社会で、高い倫理基準や公共の価値観を推進するプログラムを実施する。3. 専門職従事者のためのネットワークづくりのイベントを企画する。そこで、地元の人々と面識を持ち、ロータリーを紹介する。4. 「キャリアデー」を開催し、クラブ会員が自分の職場やキャリアの機会について地元の若者に紹介する。5. 少なくとも3つの教育機関で、新世代を対象に「四つのテスト」を紹介する。6. ロータリアンが、地区のローターアクターの相談役となって指導する。ローターアクターを例会に招いて、それぞれの職業について卓話をしてもらう、ことなどです。

R I職業奉仕推進委員会を開催

前年度と大きく異なることは、パネルジーR I会長がR I職業奉仕推進委員会を設けたことです。私が委員長で、副委員長はアメリカの方、ほかにフランス、インド、アルゼンチン、アメリカから委員を選び、R I理事会から連絡係として近藤雅臣R I理事が加わりました。

早速、6月9日にメールでR I会長エレクトから指示がありました。それは、東京ロータリークラブで2011年1月19日に行われた卓話の内容についてどのように考えているかということと、CSR (企業の社会的責任) の活用が現在のロータリーの職業奉仕と会員維持・増加につながるのではないかと提案でした。その卓話は「CSRの国際規格一求められる対応」と題して、一橋大学大学院商学研究科の谷本寛治教授が行ったものです。その中に2010年11月から発行されたISO 26000の説明もありました。

そこで、副委員長と早速メールで相談をし、R I本部の職業奉仕担当スタッフを加えてのインターネット会議を6月24日に持ちました。その結果、エバンストンでのR I委員会を7月に予定することと、そのプログラム内容が決まりました。

7月25～26日にエバンストンで全委員参加によ

るR I職業奉仕推進委員会を開催できました。ここでは委員長である私の議題概要説明で始まり、パネルジーR I会長から「職業奉仕における会長目標」が説明されました。委員会討議では、前年度の職業奉仕委員会とR I理事会が改正した「ロータリアンの職業宣言」について、変更部分を確認しました。同時に前年度委員会でオープン討論となった「職業分類」の内容も確認しました。特に時間をかけて討論したことは「R I長期計画における職業奉仕関連目標」と「R I長期計画における、中核的価値観の一つである高潔性と職業奉仕における倫理との関連性」です。

次にパネルジーR I会長提案のCSRとロータリーでの職業倫理との関連をどのように位置づけるかを討議しました。CSRのまとめであるISO 26000の内容については、ロータリアンとして強い必要性を認めながらも、具体的な事例の内容討論までには時間が足りませんでした。さらに職業奉仕の推進のために、「職業奉仕R Iニュースレター」の改善点、クラブ・地区職業奉仕プロジェクトの成功例に関するフィードバックを求める方法について討論しました。2日間の最後は、委員会として9月のR I理事会に提出する「理事会への推奨事項」を協議しました。

その主なことは、2010 - 13年度のR I長期計画では3つの優先項目のうち「公共イメージと認知度の向上」の中に「職業奉仕を強調する」という目標が入っております。これに対して委員会としては「職業奉仕はロータリーの土台」であり、職業分類の原則に基づいて会員の勧誘と維持に活用する。そこで「クラブのサポートと強化」の目標の中にも入れるべきである。同時にロータリアンは自分の職業経験を生かして新世代奉仕を行っている。そこで優先項目「人道的奉仕の重点化と増加」の目標の中にも入る。これらをまとめて「職業奉仕はロータリーの土台である」と別な箇所の説明を記入してはどうかという意見が多数でした。

さらにR Iとして現在は絶版となった『奉仕は我がつとめ (Service Is My Business)』を再出版してほしいという意見もありました。

ISO 26000 に取り組む

次にCSRは各国の大企業ではかなり実践されているが、各国によって取り組み方の特徴が異なります。その多様性を尊重して、やはり広い意味では職業倫理に含まれると思います。なかでもISO 26000は国

際規格として発行されてまだ日が浅いので、委員会はロータリアンがこれから積極的に、特に中小企業でも具体的に取るよう検討することになりました。そのISO 26000は以下の特徴を持っています。

1. 国際規格であるが、認証取得は必要がないので利用しやすい。
2. ISO化が世界共通の認識を生む。
3. この国際規格はガイダンスを提供するものである。私たちの企業はもちろん、ロータリーの各レベルでの組織が持続的発展を目指すために使用できる。
4. ロータリアンが自分の会社や組織にとって必要なことをこのガイダンスの中から選択することができる。つまりチェックリストとして使用できる。

5. その内容は1. 組織統治としては説明責任、透明性、論理的な行動、利害関係者の利害の尊重、法令を守る。
2. 人権としてはハラスメント撲滅、多様性の尊重など。
3. 労働慣行としては職場の安全・衛生など。
4. 環境としては環境保全、省エネ・省電力など。
5. 公正な事業慣行としては談合や贈収賄の撲滅など。
6. 消費者に関する課題としては製品情報の提供、品質向上や顧客満足度など。
7. 地元や世界での地域社会への参画・開発としては貧困・飢餓撲滅、識字率向上、男女平等、女性地位向上、乳幼児死亡率低減、妊産婦健康改善、AIDS・マラリア・ポリオなどの疾病撲滅などです。

以上の内容をよく見ると、これらはロータリーでこれまで私たちが職業倫理を含めた奉仕活動として実行してきたことです。むしろ現在の社会や新世代においては、職業奉仕の説明にISO 26000を活用する方が理解されやすいのではないのでしょうか。

また8月16日にはパネルジーR I会長から来年のバンコク国際大会友愛の家でブースを利用して、職業奉仕の内部広報を行うようにというメールをいただきました。それを受けてR I職業奉仕推進委員会ではポスターの準備をします。日本の各クラブや地区で実行した職業奉仕プログラムで、世界の会員にぜひ紹介したい事例がありましたら、写真とともに私のところに11月末までにお送りください。

皆さまのご協力をお願いいたします。

2009 - 11年度R I理事
第2830地区 (青森県) 1998-99・2001-02年度ガバナー

ISO 26000についての詳細は、ISO/SR国内委員会のホームページ <http://iso26000.jsa.or.jp/contents/>、ご覧になれます。

ロータリーのすすめ

職業奉仕月間を迎えて

甲府RC 高野 本男 (17代孫左エ門)

私たちは間違った勧誘をしていなかったか

過日、甲府ロータリークラブ(RC)新年度第一例会で、第62代会長となる野口英一さんのため、乾杯の発声を依頼されたので、「私は本年87歳を迎える甲府クラブ最年長者。また、ロータリー在籍も54年となる最長の会員です。1957年に入会以来、54年間もロータリーの虜とりこになってきました。このきっかけを与えてくれたのは1961年、野口英一会長のお爺さんである野口二郎さんが2度目のクラブ会長をされた年度の幹事を務めさせていただいたことにありました。私をロータリーに惹き付けてきたものは何だったのでしょ。ロータリーは80年を超える私の人生を豊かに広げてくれました。私の職業を広く支えてくれました。私たちの住む地域や日本全国、さらに広い世界を豊かにしようと努める仲間たち・ロータリアンと毎週顔を合わせる昼食の集いがロータリーの魅力だったように思います。野口会長年度の一年も、このような実感を味わえる一年であってほしいと願います」と語り、ワインならぬグレープジュースの杯を挙げた。

甲府RCは1950年4月、東京RCのスポンサーで誕生した。

創立会員26人の中には野口二郎さんや、私の父16代孫左衛門もいた。私自身は54年のロータリアンとしての経験を実りあるものとして過ごしつつあり、また、私の長男18代孫左エ門は本年度第2620地区ガバナーエレクトに指名され、親子孫3代にわたってロータリーの魅力を享受させていただいている。

創立後六十余年を経過した甲府RCが、静岡県・山梨県で構成される第2620地区内(79クラブ)で会員数100人を超える唯一のクラブとなってしまった現実に直面し、日本のロータリーが抱える痛みを他人事ではなく痛感しながら、なぜ、こんなにも楽しく充実した「ロータリーに繋がる喜び」が共有されないのか、と考えている。

「ロータリーは優れて偉大な奉仕団体」なのだろうか？ 私たちがロータリークラブに新会員を推薦する

時、間違った勧誘をしていなかっただろうか？

「ロータリークラブに入ってすばらしい奉仕者になるうじゃありませんか。ロータリーは100年の歴史を持ち、奉仕の実績を持つクラブです。その仲間にあなを推薦したいのです」。こんな誘い文句に象徴されるような理解をしてこなかっただろうか？

確かにロータリーには四大奉仕部門の強調が謳うたわれている。クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕と国際奉仕である。さらに、昨年の規定審議会で新世代奉仕を加え五大奉仕となり、それらがロータリーの事業目的のような解説を耳にする。この表現はロータリーがあたかも「奉仕事業の百貨店」でもあるかのような印象を世間に与えている。

「ロータリーの目的は、職業奉仕の推進にある」という本旨が、四大奉仕とか五大奉仕とか、という多彩な奉仕プログラムの列挙の中で曖昧あいまいにされ、混乱してしまっている今日のロータリーの姿を反省しなければならない。

ロータリーの目的は職業奉仕の推進にある

故・佐藤千壽パストガバナー(第2580地区)の「職業奉仕私観」に次のような一文がある。

「職業奉仕をロータリーの金看板とし、これこそロータリーのロータリーたる所以だとする人は多い。(中略)職業奉仕という概念を持っているのはロータリーだけだということも言われている。(中略)ロータリーは実業人、専門職業人の組織する団体だから、奉仕の全勢力をこの職業問題に傾倒すべしとする主張は、ロータリー創立後いくばくもない時代から熱心に繰り返され、またこれを梃子てこにして幾多の議論が沸騰してきたことは歴史の示す通りである。(中略)一九三五年のメキシコ大会で採択され、今日まで厳として続いている『ロータリーの綱領』に拠れば、職業奉仕こそロータリーの目的である、ということは極めて明瞭な事実なのだ。この綱領が生きている限り、職業奉仕を除いてロータリーは存在しない——職業奉仕の無いロータリーは最早ロータリーではない、ということに

なる。ところがそういう綱領の徹底的究明を抜きにして、唯^{ただ}ロータリーは一業一人、職業分類の原則に従って選出された職業人の集まりだから職業奉仕が大事なのだとか、ロータリーの言う四大奉仕の一方の柱だから云々、といった議論に終始する^{ため}何となく目的意識が曖昧^{あいまい}になってしまうのだ。この点について神守源一郎パストガバナーは、事が曖昧になる最大原因は翻訳の誤りにある、原文は“Object of Rotary”となっているのではないか、“object”はどう考えたって明らかに『目的』だ、綱領などという馬鹿気た^{ばか}訳語^{わけ}を使うから分らなくなるのだ、と極めて手きびしい。成程 principles とか、essential points とか言うなら綱領でよかるうが、object と言われたらやはり『目的とする対象物』のことだろう。そればかりではない、『ロータリーの目的』とはっきり宣言すれば、どれだけ事が簡単で明瞭になるかわからない。

さてそこで、この“Object of Rotary”なるものを眼光紙背に徹する注意力を集中して読んでみると、今度は大変なことを発見する。先ず第一に object は単数であって複数でないということ——それから次に、その目的とは何かということ^を明瞭に一文で総括していることである。

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster; ………

現行の日本語訳の『綱領』という言葉^を『目的』に置き換えて示すなら、『ロータリーの目的は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある』となるのであって、これでは明らかにロータリーの目的が、“奉仕という基本理念の上に立って事業が行われる様にする”にあると了解せざるを得まい。してみれば、極めて簡単に要約して『ロータリーの目的は職業奉仕の推進にある』という結論に達してしまうだろう。

ところがこの主文の後に『特に次の各項』云々という文句が続いて、更に1・2・3・4と四項目が並んで出てくるものだから、ここから混乱が始まる。この四項目をもって一般に四大奉仕を指すと了解し、^{しか}も一番肝腎な主文を飛ばして番号のついた所だけを読んでしまうのである。そういう読み方を^{する}原因も、考えてみればやはり『綱領』となっている所にあるので、我々は『綱領』と言われると『一つ……』『一つ……』という感覚に誘い込まれてしまうのではないか。だがこ

のObjectの最初に出てくる言葉は、決して落語の『枕』みたいな飾りものではない。正に主文そのものなのだ。そして後に続く四項目は、主文に於て宣言されたロータリーの目的を達成する為にはどうすべきか、ということ^で具体的に行動指針を示したものと解すべきだろう。『知り合いを^{ひろ}める』とか、『国際間の理解と親善』とかいうことが、どうして職業奉仕と結びつくのか、などと短兵急な質問をする人があるかも知れぬが、職業が孤立して単独で存在し得るものではない、という一事を指摘するに留めておこう」と記しておられる。

再生は「職業奉仕」への理解と推進・実践

ここに引用した文章は、佐藤千壽パストガバナーの『私本・人作りロータリー（上巻）』（1996）に再掲された旧稿「職業奉仕私観」であるが、故・神守源一郎パストガバナー（第2580地区）の『ロータリーでいう職業奉仕』（1972）とあわせて、私にとっては、ロータリーを理解し職業奉仕の真意を納得することのできた貴重な古典的テキストであった。

この二人の先輩パストガバナーが30年も前に指摘されていた「ロータリーの綱領」の日本語訳に起因する混乱は^{じやくき}惹起され、現在の日本のロータリーに影響を与えたこの懸念要因への対応として、図らずも先年有志のパストガバナー方によって「ガバナー協議会・綱領等翻訳問題調査研究小委員会」が立ち上げられたことが報告されている。この委員会の検討の成果に期待するものは大きい。

さて、日本のロータリーの会員数は9万人を割ってしまった。日本の厳しい経済環境の影響も無視できないが、あらためて、ロータリアンに限ってその退会・脱落の背景を十分検討しなければならぬ。

「ロータリーに魅力がなくなったから」「自分の本業（職業）にもっと集中しなければならなくなったから」などがよく挙げられるが、前述した「ロータリーの目的」と「職業奉仕の真意」がクラブ運営に生かされ、ロータリアン自身の理解と納得を得られていたならば、今日のロータリーはもう少し違った姿になっていたのではないかと愚考される。

日本のロータリーの再生・蘇生の道は「ロータリーの綱領（目的）」の本来の思いに立ち返り「職業奉仕」への理解と推進・実践を深めることに尽きると思っ



「四つのテスト」の沿革

STORY OF FOUR-WAY TEST

ハーバート J. テーラー

『ロータリーの友』1955年2月号からの転載

1932年、私はクラブ・アルミニウム会社の債権者の委嘱を受けて、これを破産閉店の窮地より救う仕事を引き受けた。この会社は鍋釜など台所用品の販売業としていたのであるが当時全財産額を越すこと40万ドルに及ぶ負債を負っていた。こんな訳で破産状態ではあったがまだつぶれた訳ではなかった。

そこで私は、シカゴのある銀行から6,100ドルの金を借りて、これを元手として立て直しをはかったのである。われわれの会社の製品は優良なものであったが、競争会社も、名のよく通った良い料理道具を売り出していた。またわれわれの会社には優秀な従業員を持っていたが、競争会社もこれに劣らぬすぐれた従業員がいた。その上彼らの方がわれわれの会社よりも当然ながら財政状態がはるかによかったのである。

われわれが直面した並々ならぬ障害やハンディキャップに鑑み、どうしても競争者が等しく持っていない何物かをわれわれが発展させなければならぬと感じた次第である。そこで職員の人格、信頼性、奉仕意識に頼るべきことに決心をしたのである。まず職員選択には特に注意を用い、次に会社の発展と歩調を合わせ、よりよい人間になるように助力しようと決めたのであった。

「正義は力なり」と信じ、常に全力をつくして正義を守ろうと決心した。われわれの事業も、他の多くの事業同様、一つの道徳信条を持っていたが、この信条は長過ぎて暗記はできない、従って実際的でなかった。そこで会社の全員がすぐ暗記できるような簡単な道徳の尺度が必要であると感じ、またそれは何をなすべきかを命ずるものではなく、計画、政策、陳述、行為が正しいか否かを自ら悟ることのできるように質問の形

をとるべきであると信じたのであった。

かなり多くの時間を費やしてついに4つの短い質問を作り上げたが、これが今ここに示す「四つのテスト」なのである。

すなわちそれは

1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか
- である。

私はこのテストを机の上のガラス板の下に入れて、会社の中の他の誰にも話す前に、数日間自分で試してみることにした。ところがその経験は甚だ失望的なものであった。

始めの日、私の机上来た問題1つ1つに第1のテストの「真実かどうか？」を試みた時、私はもう少しでこの紙片を紙くず籠の中へ投げ込みそうな気持ちになった。私はいかに自分がしばしば真実に遠いか、またわが社の文献、書簡、広告にいかにも多くの虚偽が含まれているかをそれまで悟らなかったのである。

「四つのテスト」にのっとして生活しようとたゆまず忠実に努力すること約60日の後、私はその偉大な価値を完全に理解し、同時に社長としての自分の営みに屈辱を感じ、時には失望をすら覚えたのであった。しかし私は「四つのテスト」にのっとして生活することに十分な進歩を遂げたので、そろそろ同僚にも話す資格ができたと感ずるようになった。そこで私は部下の4人の部長とこのことを論じてみた。諸君は定めしこの4人の人の宗教上の信仰を知ることに関心を抱かれることであろう。その1人はローマ・カトリ

ック教徒、1人はクリスチャン・サイエンス教徒、1人は、正統派ユダヤ教徒、もう1人は長老派新教徒であった。

私は彼らの一人ひとりにこの「四つのテスト」には、彼らの信仰や理想と背反するものがあるか、どうかを問うてみた。ところが4人とも、真実、公平、友情、援助ということは単に彼らの宗教的理想と一致するばかりでなく、もしこれを業務に絶えず適用すればより大なる成功と進歩を生ずるであろうとの意見であった。彼らはそこで、会社の計画、政策、陳述、広告などの検討にはこの「四つのテスト」を用いることに賛成した。その後従業員全部に対し、これを暗記して他人との関係に当たってこれを利用することを求めた。

「四つのテスト」に照らして広告文案を検討した結果、真実の立証できないような文句は削除されるようになった。こうして私たちの会社の広告からは best だとか finest だとかいう最上級の文句が消え去ってしまったのである。その結果、世間の人々はわれわれの広告内容を次第に信用するようになり、製品の売上は漸次増加していったのであった。

また「四つのテスト」を常用する結果競争者との関係についての方策も変わらざるを得ず、会社の広告からも文献からも競争会社の製品についての誹謗を全部削除するようになった。かえって折があれば進んで商売仇を褒めることにしたので、彼らから信用されその友情を得ることができた。

また会社内の職員と幹部との関係にも「四つのテスト」を適用したため、彼らの友情と善意を獲得できたのである。またわれわれと一緒に仕事をする人々の友情と信頼こそ、実業界における永久の成功に必要な欠くべからざるものであることが分かったのである。

職員たちの20年間にわたる誠実な努力により、「四つのテスト」に表われている理想に向かって、われわれは着々と進歩を遂げていた。こうして売上は漸次増加し、職員の所得も利益も従って増えたのである。1932年には破産状態であった会社が負債を全部払い、株主には100万ドル以上の配当金を支払い、会社の資産は現在200万ドル以上になっている。これらのむくい全部わずか6,100ドルの現金投資と「四つのテスト」と、神と高い理想への信仰の持ち主である勤勉善良な職員から出たのである。

しかし「四つのテスト」の使用より生ずる無形の配当の方が金銭的配当よりもはるかに大きいのであ

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

THE FOUR - WAY TEST

Of the things we think, say or do

1. Is it the TRUTH?
2. Is it FAIR to all concerned?
3. Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
4. Will it be BENEFICIAL to all concerned?

て、わが社は顧客競争者、大衆の善意と、友情と信頼の不断の増大を享有してきたのである。さらにもっと大切なことにはわが社の職員自身その徳性が大いに改善されてきた。

もし諸君がこの「四つのテスト」を他人とのすべての関係に毎日8時間の営業中に欠かさず適用すれば必ずや、家庭においても、また会社生活においてもそうならざるを得なくなる習性が身につくことをわれわれは既に経験している。かくして諸君はよりよき父となり、よりよき友となり、よりよき市民となることであろう。

本文は、「四つのテスト」の考案者であるハーバート J. テーラー氏が執筆し、国際ロータリー会長を務めたときに、『ロータリーの友』に転載したものです。

当時、旧漢字、旧仮名遣いで掲載した文章を現代の漢字、仮名遣いに変えて、あらためて掲載しました。

職業奉仕に関する声明 (Statement on Vocational Service)

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である。職業奉仕の理想に本来込められているものは次のものである。

- 1) あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進すること。その中には、雇主、従業員、同僚への誠実さ、忠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己すべての公正な取り扱いも含まれる
- 2) 自己の職業またはロータリアンの携わる職業のみならず、あらゆる有用な職業の社会に対する価値を認めること

- 3) 自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること

職業奉仕は、ロータリー・クラブとクラブ会員両方の責務である。クラブの役割は、模範となる実例を示すことによって、また、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを開発することによって、目標を実践、奨励することである。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って自らと自分の職業を律し、併せてクラブ・プロジェクトに応えることである (ロータリー章典 8.030.1.)。

ロータリアンの職業宣言 (Declaration for Rotarians in Businesses and Professions)

1989年規定審議会は次の職業宣言を採択した。

事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私には以下のごとく行動することが求められている。

- 1) 職業は奉仕の一つの機会であると考えること。
- 2) 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳基準に対し、名実ともに忠実であること。
- 3) 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理基準を推進するために全力を尽くすこと。
- 4) 雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他事業または専門職務上関係を持つすべての人々に対し、公正であること。
- 5) 社会に役立つすべての仕事に対し、それに伴う名誉を認め、敬意を表すること。
- 6) 自己の職業上の才能を捧げて、青少年に機

会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めること。

- 7) 広告に際して、また自己の事業または専門職務について人々に伝える際には、正直を貫くこと。
- 8) 事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めたり、与えたりしないこと (89-148、ロータリー章典 8.030.2.)。

2004年規定審議会は、この宣言をさらに支持するため、すべてのロータリアンが、事業と専門職の倫理に対するロータリーの献身を体現するような生き方を引き続き助長し、また、21世紀を迎え、奉仕の2世紀目に移行するにあたり、ロータリー・クラブが、高度な道徳的水準を実践している人を惹きつけ、探し出してきたこれまでの優れた実績を土台に発展していくという決議案を採択した (04-290)。